

観察会報告
大谷崩れの紅葉と地層の観察会
柴 正博



一時空が晴れて大谷崩の全景が見られた



生痕化石を探して河原を散策



深海底の巻貝がはいまわった跡の生痕化石



観察会で採集した生痕化石標本

2018年11月4日(日)に、安倍川最上流の大谷崩れに「大谷崩れの紅葉と地質の観察会」ということで行きました。参加者は、13名で5台の車に分乗して10時ころに大谷崩れに到着して、2時間あまりそこで過ごして、帰りに赤水の滝を見学して解散しました。その後、何組かは帰りに有東木に寄って、千本杉を見ていきました。

4日は午後から雨という天気予報でしたが、雨にほとんど降られることなく、お昼ころには晴れ間も出て、大谷崩れの景色を堪能できました。紅葉は、大谷崩れの斜面では見ごろでしたが、それほど鮮やかではなく、下の赤水の滝付近ではもう1週間後が見ごろといったところでした。また、河原の大きささま

な石の中からは、たくさんの生痕化石も発見できて、参加者にも満足していただきました。

大谷崩れは、約300年前(宝永4年)の大地震によって大崩落を起こし、その崩落土砂は赤水の滝付近まで安倍川を埋め立て、川の地形を変えてしまい、その上流と下流に大きな被害を与えました。大谷崩れをつくる地層は、古第三紀(6600万~2300万年前)に深い海底で堆積した瀬戸川層群とよばれる砂岩層と泥岩層で、崩れの斜面では、褶曲したり断層で破碎された地層が見られます。

観察会では、河原に転がる大小の石から、当時の海底に棲んでいた生物の棲み跡やはい跡などの生痕化石を見つけていただきました。